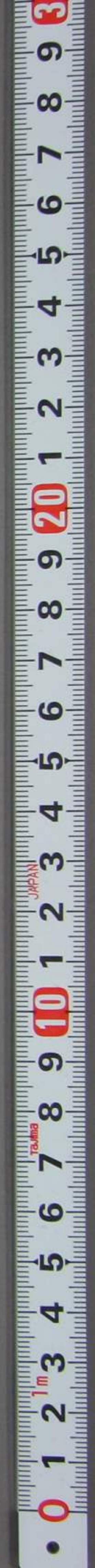


北田良文

梓星

3120



114
A 3516



紙幣之價格ヲ矯正スル見込書

竊カニ方今ノ財政ヲ觀ルニ日々困難ニ赴キ官トナク
民トナク之ヲ救濟セント欲セサルニ非スト金に猶未タ其
道ヲ得サルカ如シ顧フニ夫ノ困難ハ何事ニ職由スルカ蓋
シ數多ノ原因アリ一事一挙ノ故ニアラス是ヲ以テ之ヲ救濟
セント欲セハ固ヨリ一事一挙ノ能為ス所ニ非サルヤ明カナリ
然レモ其重大ナルモノヲ挙クレハ蓋シ紙幣多キニ過キ實
貨之ヲ告ケタルニ外ナラサルヘシ果シテ然ラハ救濟ノ道ハ
大ヒニ實貨ヲ得テ以テ此過多ナル紙幣ヲ減殺ス
ルヲ以テ最モ緊要ナリトナサハルヲ得サルナリ

大正十一年四月
隈侯郵寄贈

今夫ノ實貨之ヲ告ケタリ故ニ貨幣益騰貴シ紙幣多キニ過キタリ故ニ紙幣倍々低落シ其低落シタル紙幣ト其騰貴シタル貨幣トハ一般ノ物價ニ影響シ細民ハ飢餓ニ泣キ豪戸モ亦金融ニ苦シシ邦内ヲ舉ケテ菜色ノ實ナキニ非ス此時ニ際シ數多ク實貨ヲ得テ以テ價位ヲ等一ニセント欲ス固ヨリ苟且因循ノ能ク為ス所ニ非ス必スヤ確然不拔ノ措置ナカル可カラス何ヲカ確然不拔ノ措置ト云フ他ナレ盛シニ鑛山ヲ開鑿シテ以テ實貨ヲ製出スル即チ是レ也

然リト雖モ鑛業ハ世人概子之ヲ危マサルモノナシ是レ固ヨリ一理ナキニ非ス何ナレハ從來ノ稼行者多クハ巨額ノ資ヲ擲テ却テ其効ヲ奏セサレハナリ然レモ余ヲ以テ之ヲ視レハ是レ必竟稼行者ノ法方其亘ヲ得サルノ過ニシテ決シテ鑛業ノ業ニ非サルナリ故ニ從來ノ稼行法ハ之ヲ一掃シ更ニ尤ノ目的ニ依テ以テ鑛業ニ從事セントス

第一 詳カニ山相ヲ觀視シ其良山ノ相アルヲ認メテ後ニ測量ニ從事シ又既ニ測量シテ試ニ採掘ニ着手スルモ尚ヲ其鑛質ト砒脉トヲ檢シ果シテ永

遠從事スルニ足ルモノト確認シタル後ニ非サレハ管繕ニ着手セス故ニ從未ノ稼行者ノ如ク僅カニ試掘ヲナシテ遠カニ管繕ニ着手シ不幸ニシテ永遠ニ目的ヲ失ヒ管繕ノ費用ヲ併セテ損耗ニ歸スル如キナシ

第二 製鍊ハ便法ヲ主トシ悉ク洋法ニ因ルニ非ス又悉ク和法ニ因ルニアラス彼此ヲ折衷スルハ勿論ナリト虽モ西洋器械ノ高價ナルモノ、如キニ至ラハ稼行數年ニシテ永遠盛大ノ目途確定シタル後ニ非サレ設置セス

第三 鑛山ノ盛衰ハ鑛質及ヒ砒脉ニ關スルハ勿論ナリト虽モ亦大ニ一山ノ人氣ニ關ス故ニ鑛業ニ從事スル者ニハ總テ給金ノ外ニ利益ノ幾分ヲ頒與ニ務メテ人心ヲ鼓舞奨励スヘシ

但頒與金ハ一山毎ノ益金ノ幾分タルヘシ

第四 鑛業ハ山相製鍊ニ課ヲ以テ主要トナシ從未ノ稼行者ノ如ク會計ヲ以テ主要トスルナシ是他ナシ此ニ課ハ實品ヲ生スル要課ナレハナリ

第五 毎月一山毎に製品ト費用トヲ較算シ若シ損失アレハ其山ノ負債トナシ之ヲ償却セサル

中ハ時々其山ニ益金アルモ領與スルノ無カルヘシ
以上ノ目的ヲ以テ從事セハ鑛業ニ於テ決シテ損耗ア
ルノ理由ナシ且ツ此目的ヲ以テ從事スルト虫尾專ラ休
山廢山ノ猶ホ採掘スルニ足ルモノヲ擇ンテ從事シ新
山ノ如キハ至良ノ鑛山ニアラサレハ從事セス故ニ早キハ
二三月遅キモ一ケ年ヲ出テスニテ必其效果ヲ見ルイヲ
得ヘシ然リ而シテ其資金ハ鑛山毎ニ殊異ナルヘケレハ今
豫メ確定スルイヲ得サレハ暫ラク概算スレハ約子五百万
圓ノ金ヲ備ヒテ一百有余ノ鑛山ヲ開鑿シ決シテ他日
資金ノ缺乏ヲ患フルイナカルヘシ

然リト虫モ世上ノ事物ハ意ノ如ク成ラサルモノ多ク必ス利
益アルヘシト信シタル者モ或ヒハ損耗ニ歸スルイナキニ非
ス故ニ暫ラク此目的ヲ以テ鑛業ニ從事シ不幸ニシテ
損失ヲ招キタルイアラシニ是甚患フヘキニ非ス夫ノ鑛
業上ヨリ見レハコソ損失アルヘクト虫尾弘ク之ヲ一國ノ政
政上ヨリ見レハ是レ蓋シ損失ニ非ス今試ニ一ケ月金五
千百圓ヲ費シテ製品五千圓ヲ得ルノ鑛山アリト假定
セシニ一ケ年ニ積算シテ千貳百圓ノ損失アルヘシ然レハ
其損失ハ必竟紙幣千貳百圓ノ損失ニメ得ル所ノ
實貨實ニ六万圓ノ巨額ナルカ故ニ費シタル紙幣ト

其價格ヲ對比セハ(目今ノ相庭) 幣ニ損失ニアラサルノ
ミナラス却テ一千戴百回ノ損失ヲ償フテ猶ホ幾分ノ
利益アルヘシ又若シ之ヲ全ク損失ニ歸シテ恢復ノ道ナ
キモノトスルモ從來貨幣ハ得難クシテ且ツ日々ニ騰貴
シ紙幣ハ得易クシテ且ツ日々ニ低落シ乃チ低落
スル紙幣ヲ以テ騰貴スル貨幣ヲ獲得ルノ理ニシテ其
實ハ各地ニ交換ノ所ヲ創置スルニ異ナラス故ニ全ク損
失アリトスルモ獲得ノ所ノ貨幣ハ悉ク紙幣ノ地位ニ代リ
終ニ紙幣ヲ變シテ貨幣タラシムヘシ果シテ然ルヲ
得ハ紙幣ニ幣ノ羞ハ跡ヲ社會ニ絶テ以テ財政ノ困

難ヲ患ナル今日ノ如キ一アラサルヘシ是レ余カ鑛山ノ
開鑿ヲ切望スル所以ノ概畧也

明治十三年九月廿五日

北田良友

